



えきや



— 自分で考えて行動する — 第8号

人と人が関わる時 ～笑顔でいることが とても力になる～

2学期が始まり1週間が経ちました。昨年度より少し早い2学期のスタートをみんな元気で過ごしています。

この夏休みの間、こどもたち一人一人、成長できたことと思います。2学期、笑顔のこどもたちと毎日過ごすことができるのが、とても嬉しいです。



『笑顔でいることが とても力になる』

さて、人と人が関わる時に、笑顔でいることがとても力になると思います。

私はかつて、こどもから学んだことがあります。自分が初任者だった時のことです。1学期の終わりごろ、廊下を歩いていたとき、他の学年の子どもから「先生、どうしたの。先生は笑ってたほうがいいよ」と、声を掛けられました。その時、いろいろなことがなかなかうまくいかず落ち込んでいて、とても暗い表情だったのだと思います。そんな様子に気づいたその子が、声をかけてくれたのでしょう。こどもにそんな風に心配させるなんてダメだなあと感じ、何があってもまずは笑顔でいられるようにしようと気持ちを切り替えるようにしました。その成果がどうかわかりませんが、そのうち悩んでいたことも解消していきました。

このことがあってから、「笑顔でいること」を意識するようになりました(いまだに十分にできていないのですが)。こどもたちを笑顔にするために、まずは、私たち、子どもに関わる大人が笑顔でいるようにしたいです。



関わる大人が笑顔でいると、こどもは安心していろいろなことに取り組むことができます。困ったことがあっても、安心して相談することもできます。

そうはいつでも、いつも笑ってはいられない・・・ということもあるでしょう。でも、辛い時でも「笑顔」でいることは、心理学や医学の面からも、とても良いそうです。ストレスを減らす、免疫力を上げるなどの効果があるともいわれています。こどもたちのためだけでなく、私たち自身も「笑顔でいること」は大切なのです。「笑う門には福来たる」です。

日々の学校生活の中で、私たち教職員が笑顔でこどもたちと関わることをたいせつにしていきます。保護者の皆様。地域の皆様も笑顔でいられることがたくさんありますように。

2学期もどうぞよろしくお願いいたします。



(文責 校長)